

すいた環境サポーター養成講座 第 14 回目（最終回）

日時：1/26(土)10：30～16：00

場所：千里山コミュニティセンター多目的ホール

◆地域実践活動の社会的効果で学ぶ 2030 アジェンダ

講師：(特活)大阪府民循環型社会推進機構 事務局長 逸見祐司

2030 アジェンダとは、国連総会で先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的目標として採択されたもので、持続可能な開発目標（SDGs）として、17 のゴールが設けられています。

これに関連して、わが国が持続可能な社会を目指すべき理由、それに至る経済活動、環境活動、再分配政策の方向性とその政府の在り方や、生存数曲線の推移などの説明がありました。また、持続可能な社会（政府）の構築を目指す為に必要な政策や施策例や、地域活動参加率と要介護認定率の関係など、高齢者層等の市民参画により発現する公益多面的な便益について学びました。



◆NPOと福祉施設のコラボ

講師：社会福祉法人さつき福祉会 あいほう吹田 施設長 青山茂次郎氏

「自然とふれあいながら生きる力をよりたくましく」を目指して、吹田市立障害者支援交流センターあいほう吹田と特定非営利活動法人野と森の遊び文化協会の10年を越える協働の事例が紹介されました。障がいのある人々の生活の質を高めるため、平成19年より1年間に10回程度、農体験や竹林保全体験を万博記念公園の自然文化園の生産の森の田んぼや畑や果樹園で実施しています。これらの田畑は、特定非営利活動法人野と森の遊び文化協会のボランティアにより管理されており、これらの農作業等の技術的支援と、特定非営利活動法人インクルージョンプログラムラボラトリによる体験活動の支援を通して、障がいのある人の生活経験を豊かにする取り組みとなっています。これらの体験で収穫された野菜等は施設での調理実習等で活用されているそうです。地域連携による人的・社会的資源の活用の事例としても学ぶところがありました。



◆ N P Oと海外教育機関等のコラボ

講師：大阪府立茨木西高等学校 英語科教諭 小野八千代氏

「万博記念公園において、オーストラリアからの中高生を対象とした日本文化理解を促進するための環境保全体験学習支援」について、お話しくださいました。オーストラリアの中高生が日本特有の竹・竹林の保全活動、竹細工の体験を通して、日本における環境保全を学ぶプログラムを紹介されました。学校教育という制約がある中での日本とオーストラリアの相互交流事業の立ち上げ、オーストラリアでの環境教育プログラムについても言及がありました。日本とオーストラリアの高校と万博記念公園でエコツアー等も実施する中間支援組織(特活)大阪府民循環型社会推進機構などが協働企画するスタディツアーの事例でした。限られた時間の中で、立場が違う人々が集まり協働のうえ、最大の効果をあげるには、どうするのかということも学びました。



◆ 学習発表会

午後からは受講者による学習発表を行いました。これは今までの学習の成果をグループ毎で発表する場です。A～Cの受講者グループのそれぞれが「共通テーマ」と「選択テーマ」について発表してくれました。

「共通テーマ」は「履修内容のふり返りを通じた総括」について。「選択テーマ」ではAグループは、「吹田市の廃棄物処理の現状と課題を踏まえて、何が自身で取り組めるのかを考察」、BグループとCグループは「本講既習内容において具体的に何を生かしたサポート活動ができるか」について発表しました。



この発表に向けて受講者の方々はグループ内で話し合い、又は多くの文献を参考にしながら発表に臨んでくれました。その努力が報われるような素晴らしい発表となりました。

◆全体のふりかえり、(閉講式) 修了証授与・環境部長式辞・記念撮影

学習発表の後、今後のサポーター活動について吹田市職員から説明があった後、全体のふり返しを行いました。

そして修了証の授与が行われ、中嶋環境部長から本講修了のお祝いの言葉に加えて、すいた環境サポーターへの今後の期待についての話がありました。

受講生は修了証を授与され、昨年の夏から始まったこの講習会について、皆が達成感を感じているようでした。

本講は「理論講習」、「スキル（実技）」、「事例学習」、「施設見学」、「ワークショップ等の演習」、「インターン実習」の6つ柱で構成されています。受講者の方々には、環境問題の解決にむけて、様々な視点から学んだことを実践して欲しいと願っています。



受講者の皆さんお疲れ様でした。講師や講師補佐、運営スタッフを担当したのべ 150 人以上の方々、ありがとうございました。取組説明をして下さった吹田の環境活動に取り組む数多くの市民団体の方々、ありがとうございました。受講者インターンを受け入れて下さった数多くの市民団体の方々、ありがとうございました。